

令和2年度

教育課程研究集会

中学校 音楽

奈良県教育委員会事務局学校教育課
義務教育係 指導主事 辰巳 真弓

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

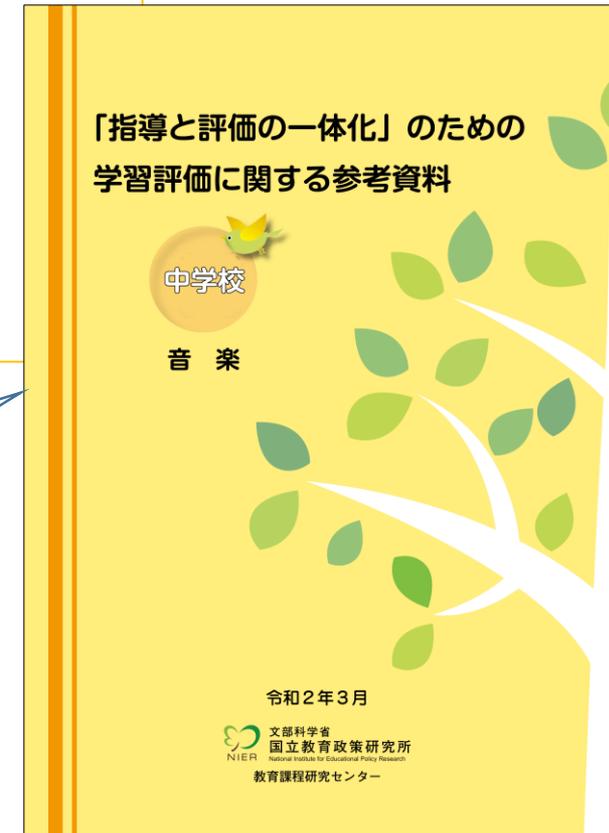
第1編 総説

第2編 「内容のまとめりごとの評価
規準」を作成する際の手順

第3編 題材ごとの学習評価について
指導事例（4事例）の紹介

以下「参考資料」と示す

国立教育政策研究所のwebページから
ダウンロードすることもできます。



1

学習評価の基本的な考え方

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化，高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し，目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など，新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず，質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び



育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する生徒の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力，人間性等

どのように社会・世界と関わり，
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

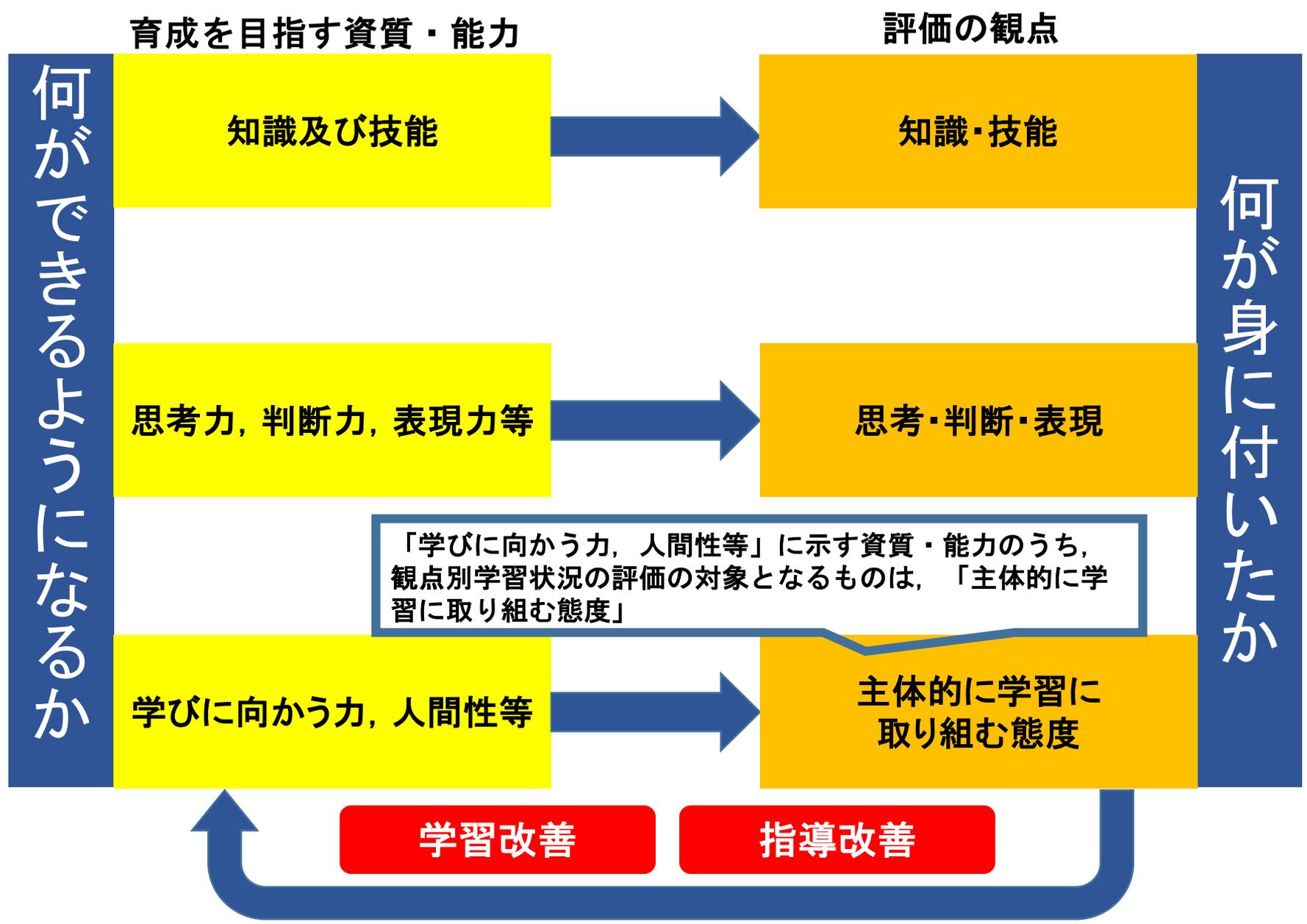
理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力，判断力，表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

資質・能力の三つの柱と新しい評価の観点



観点別学習状況の評価の観点の整理（音楽科）

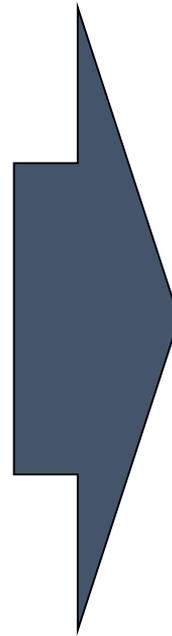
< 現行 >

音楽への関心・意欲・態度

音楽表現の創意工夫

音楽表現の技能

鑑賞の能力



< 新 >

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

2

中学校音楽科

評価の観点及びその趣旨



中学校音楽科 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「音楽科の目標」と評価の観点の趣旨を見比べてみましょう。

中学校学習指導要領第2章 第5節 音楽 第1 目標

音楽科の目標(1)	「知識・技能」の観点の趣旨
<p><u>曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、<u>創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</u></u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。

知識

技能

知識及び技能

- ・ 目標に示した資質・能力が身に付いているかを評価する。
- ・ 「知識」と「技能」は、指導事項を分けて示していること、評価場面や評価方法が異なることがあること、「技能」は「A表現」のみの設定であること等を踏まえ、別々に設定する。

※「知識」について評価する内容は、現行において表現領域では「音楽表現の創意工夫」、鑑賞領域では「鑑賞の能力」の観点等に含まれていたものに相当する。

評価の観点及びその趣旨 「思考・判断・表現」

「音楽科の目標」と評価の観点の趣旨を見比べてみましょう。

〔共通事項〕ア

中学校学習指導要領第2章 第5節 音楽 第1 目標

音楽科の目標(2)	「思考・判断・表現」の観点の趣旨
<p>音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>思考力, 判断力, 表現力等</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、<u>どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</u></p>

A表現
ア

B鑑賞
ア

- ・ 目標に示した資質・能力が身に付いているかを評価する。
- ・ 文頭に〔共通事項〕アに関する内容を位置付けている。
- ・ その後に、「A表現」に関すること、「B鑑賞」に関することをそれぞれ示している。

評価の観点及びその趣旨 「主体的に学習に取り組む態度」

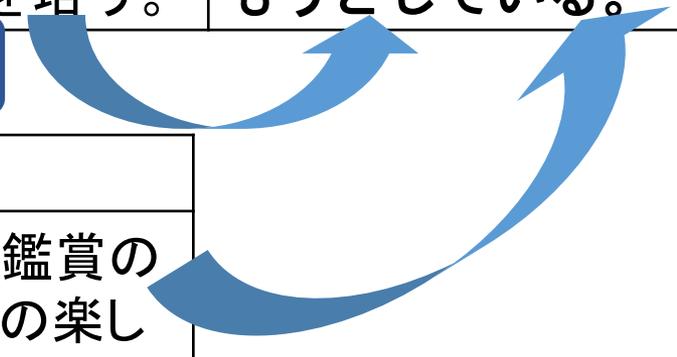
「音楽科の目標」と評価の観点の趣旨を見比べてみましょう。

中学校学習指導要領第2章 第5節 音楽 第1 目標

教科の目標(3)	「主体的に学習に取り組む態度」の 観点の趣旨
音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学びに向かう力、人間性等

第1学年の目標(3)
主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。



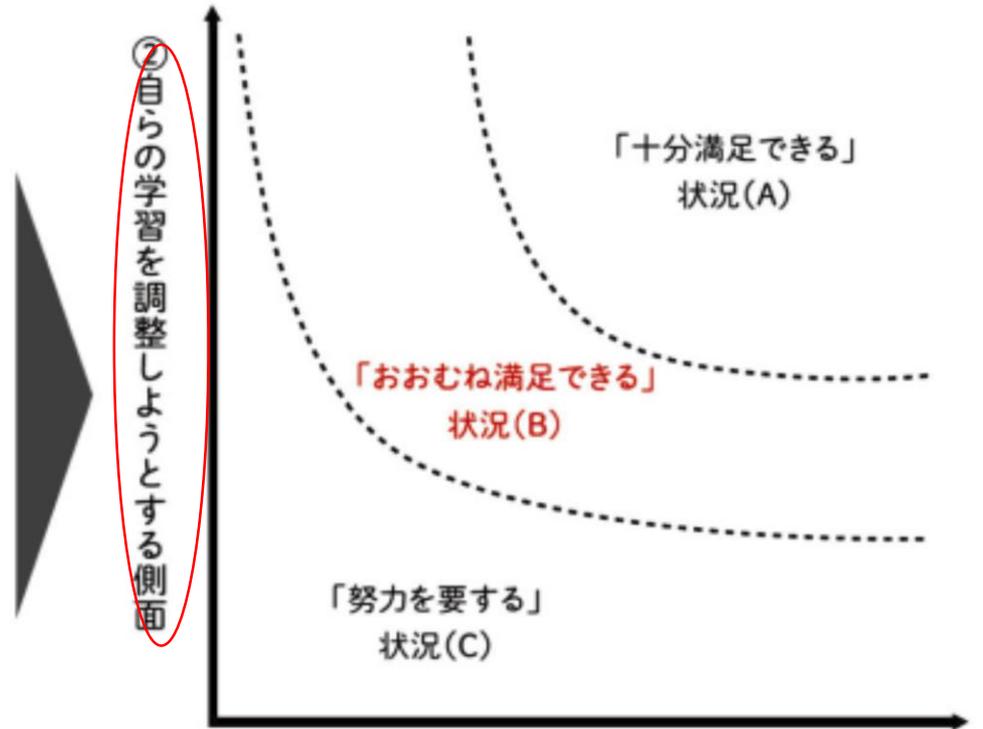
「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



①粘り強い取組を行おうとする側面

3

題材ごとの学習評価について

参考資料P43～

学習評価の進め方について

1
題材の目標を作成する



2
題材の評価規準を作成する



3
「指導と評価の計画」を作成する



授業を行う



4
観点ごとに総括する

- 学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態，前題材までの学習状況等を踏まえて作成する。

- 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成する。

- 1，2を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート，ワークシート，作品等）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり，「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い，生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。

題材の評価規準の作成のポイント

参考資料 P44～48

参考 第1学年「A表現」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ [事項イの(ア), (イ)のいずれか又は両方] について理解している。【知識】・ [事項ウの(ア), (イ)のいずれか又は両方] を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。【技能】	<p>[音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素] を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」, 創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。</p>	<p>[その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄] に関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」, 創作分野の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。</p>

題材の評価規準の作成のポイント

参考資料 P44～48

参考 第1学年「A表現」

ポイント 生徒の思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ [事項イの(ア), (イ)のいずれか又は両方] について理解している。【知識】・ [事項ウの(ア), (イ)のいずれか又は両方] を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。【技能】	<p>[音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において<u>生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素</u>] を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」, 創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。</p>	<p>[その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄] に関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」, 創作分野の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。</p>

題材の評価規準の作成のポイント

参考資料 P44～48

(参考) 第1学年「A表現」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ [事項イの(ア), (イ)のいずれか又は両方] について理解している。 【知識】・ [事項ウの(ア), (イ)のいずれか又は両方] を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。 【技能】	<p>[音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素] を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」, 創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。</p>	<p>[その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄] に関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」, 創作分野の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4

学習評価に関する事例について

参考資料P49～

事例 1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」（第2学年）

事例 2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう」（第2学年）

事例 3 キーワード 「思考・判断・表現」の評価

「音楽の多様性を理解して、世界の様々な合唱のよさや美しさを味わおう」（第3学年）

事例 4 キーワード 「知識・技能」の評価、「A表現」と「B鑑賞」との関連

「音色や音の重なり方の特徴を捉え、リズムアンサンブルの音楽を楽しもう」（第1学年）

事例2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

参考資料 P61

題材名

楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう（第2学年）

内容のまとめ

〔第2学年及び第3学年〕

「A表現」(2)器楽 及び 「共通事項」(1)

1 題材の目標

(1) 三味線の音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。

知識及び技能

(2) 三味線の音色や長唄の旋律（節回し）、リズム（間）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。

思考力、判断力、表現力等

(3) 三味線の構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。

学びに向かう力、人間性等

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 三味線の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。</p>	<p>思 <u>三味線の音色や長唄の旋律、リズム</u>を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 <u>三味線の構造や奏法による音色の違いに関心</u>をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

主体的に学習に取り組む態度

4 指導と評価の計画 (4時間)

時	ねらい	学習内容	学習活動	評価方法
1	◆三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりについて知るとともに、三味線の音色や奏法への関心をもつ。	○三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。 ・長唄「鳥羽絵」の一部を聴き、気付いたことや感じ取ったことを学級全体で共有し、声の出し方が合順などとは異なることや、歌と三味線による演奏であることを確認する。 ・三味線の音色に気を付けて、再度、長唄「鳥羽絵」の一部を聴く。 ・クラシックギターと三味線の音色の違いや、サザリの有無による三味線の響きの違いを聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に話し合う。 ○実際に音を出して試すなどして、三味線の音色への関心を持ち、三味線の音色や響きと楽器の構造との関わりについて知る。 ・三味線を用いて、グループでいろいろな音の出し方を試しながら三味線らしい音色や響きを出すための音の出し方を考える。 ・グループで考えた音の出し方を学級全体で紹介し合い、そのときの音色を聴き比べる。 ・教師の説明を聞くなどして、サザリがあることで三味線固有の音色や響きが生まれることなどを知り、実際に三味線で音を出して確かめる。 ・三味線の音色の特徴について、自分が考えたことをワークシートに書く。 ○三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知り、実際に体験して、三味線の奏法への関心をもつ。 ・教師の説明により三味線の構造を知る。 ・三味線を弾くときの姿勢、ばちの当て方、指の押さえ方などを知り、三味線らしい音を確かめながら、実際に弾いてみる。 ○題材全体を通しての学習の見通しをもつ。 ・第2時から第4時までの学習内容を確認し、本時に学習したこととのつながりや次時に向けての自身の課題などを考える。 ○本時の振り返りをする。 ・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。	()内は評価方法	○ワークシート【ワークシート】
3	◆三味線の音色や奏法を生かして、長唄「鳥羽絵」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。	○長唄「鳥羽絵」の一部をもう一度聴き、長唄について知り、長唄の発声を体験する。 ・第1時の学習を想起し、長唄について知る。 ・長唄の節回しや間の取り方を知覚・感受しながら、「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を聴く。 ・「ぬらりくらり」の部分を実験的に歌い、合唱のときに歌う声と比較するなどして、長唄の声の音色の特徴について、学級全体で意見交換をする。 ○三味線の音色や奏法に気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近づけるためにはどのように演奏すればよいのかを追求し、思いや意図をもつ。 ・グループで、歌のみの音源に合わせて、「ぬらりくらり」の部分を実験する。(三味線を演奏していない生徒は、口唱歌を歌う。) ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏の音源を繰り返し聴き、自分たちの演奏との違いに気付く。 ・三味線の音色や奏法、身体の使い方などに気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近づけるためにはどのように演奏したらよいかを、グループで話し合っ工夫し、必要に応じてワークシートの案題に書き込む。 ・グループで話し合ったことを参考に、どのように演奏するかについての自分の思いや意図をワークシートに書く。 ○本時の振り返りをする。 ・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。		○ワークシート【ワークシート】
4	◆三味線の音色や響きと奏法との関わりを知り、実際に体験しながら学習活動に取り組むとともに、三味線の音色や響きと奏法との関わりについて理解する。	○三味線の「スタイ」と「ハジキ」の奏法を身に付ける。 ・「スタイ」と「ハジキ」の奏法について知る。 ・姿勢、ばちの当て方、指の押さえ方、「スタイ」と「ハジキ」の奏法など、長唄「鳥羽絵」の一節を演奏するために必要な基礎となる奏法について互いに助言し合いながら、交替して演奏する。 ・他者からの助言を参考にするなどして、自分がよくできたと思う点や改善したいと思う点を整理し、ワークシートに書く。 ○長唄「鳥羽絵」の一節を三味線で演奏する。 ・学級全体で、長唄「鳥羽絵」の一節「ぬらりくらり」の部分で口唱歌で歌い、節回しや間、奏法を確認する。		○ワークシート【ワークシート】

評価の場面
〈I〉
態

評価場面(Ⅰ)
ワークシート

参考資料 P 65

評価と指導の進め方については、以下の通りである。

第2時

全ての生徒について、粘り強く取り組んでいるかどうかを観察し、〈教師用チェックリスト〉の「粘り強く取り組んでいる様子」の欄に記録する。

第3時から第4時

第2時で「おおむね満足できる」状況以上と判断した生徒については、第3時から第4時にかけて、自らの学習を調整しようとしているかを可能な範囲で観察し、〈教師用チェックリスト〉の「自己調整しようとしている様子」の欄に記録する。

「努力を要する」状況と判断した生徒については、適切な指導や助言を行い、第3時から第4時で改めて粘り強く取り組んでいるかどうかを観察し、記録するとともに、自らの学習を調整しようとしているかについても可能な範囲で観察し、記録する。

〈教師用チェックリスト〉

	取組状況			取組状況	
	粘り強く取り組んでいる様子	自己調整しようとしている様子		粘り強く取り組んでいる様子	自己調整しようとしている様子
生徒1	○	○	生徒14		△
生徒2		他者の助言を聞き入れようとしな	生徒15	ややあきらめがち	
生徒3	奏法を身に付けることに消極的	△	生徒16	○	△

〈ワークシート【毎時間の振り返り】の記入状況〉

	本題材の学習の振り返り	評価	評価の理由
第1時	三味線の音色や奏法に関心をもち、音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知ることができましたか。	2	よかった点やできなかった点、改善点や次への見通しなどを書きましょう。 三味線を実際にさわって見たのは楽しく積極的に取り組めたけど、音色と奏法の関係についてはよく分からなかったから
第2時	演奏に必要な奏法を生かして、三味線の音色や響きと奏法との関わりについて理解することができましたか。	3	最初は、スワイプができなかったけど、友達のアドバイスでうまくできるようになり、ぬらりくらりも大体弾けた。ほちの使い方三味線らしい音になることがわかった
第3時	三味線の音色や奏法を生かして、長唄『鳥羽絵』の一節の表現を工夫することができましたか。	4	模範演奏を何度も聴きながら、友達と熱心に話し合っ、間の取り方などを工夫することができたから。
第4時	三味線の音色や響きと奏法との関わりに関心をもち、演奏に必要な技能を身に付けて、長唄『鳥羽絵』の一節を演奏する活動に進んで取り組むことができましたか。	4	グループ同士で演奏するときにはちょっと緊張して間違えたりしたけど、三味線のいろいろな音色が奏法の違いで生まれることが分かり、三味線に興味をもてたから。

自己評価を行った結果がそのまま学習評価に結びつくものではなく、生徒が自らの状況を適正に捉えることができているかということや、その理由として自らのよかった点や改善点などに気付いており、さらには次の学習への見通しをもつことができているかということが大切である。このことについて、あらかじめ生徒と共通理解を図っておくようにする。

「主体的に学習に取り組む態度」の見取りのポイント

- 題材を通じて継続的に見取る。
- 観察を中心に発言やワークシートの記述も加味する。
- 他の観点の評価との関連を図る。
- 評価を記録に残す際には、題材終了時の姿で最終的に判断する。
- 「自身の変容を自覚できる場面」を設定する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行うにあたって

・主に観察によって「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒の学習状況を継続的に把握し、学習の改善に向けて丁寧に生徒に働きかけることが必要不可欠である。

どのような働きかけをしますか？

- ①長唄にふさわしい表現に近づくために器楽表現を創意工夫する学習活動において、活動が自分の器楽表現を創意工夫することに向かっていない。
- ②毎時間の振り返りのワークシートを書く際に、適正な自己評価ができていない。

5 おわりに



新型コロナウイルス感染症対策に関する通知等（音楽科に関わる内容）

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.6.16 Ver.2）

新型コロナウイルス感染症に対応した小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における教育活動の実施等に関するQ&A の送付について

学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について（第2報）（通知）

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（通知）

令和2年7月20日現在

音楽科におけるICTの活用

「教育の情報化に関する手引－追補版－」
（令和2年6月）